

# 「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 2 年 7 月 1 日

事業名称		災害対策事業費 [ 災害対策用食料備蓄事業 ]									
予算科目	款	9	消防費	項	1	消防費	目	4	災害対策費	事業番号	1
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独 <input type="checkbox"/> 補助対象 <input checked="" type="checkbox"/> 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)										
担当部署・課長名	防災安全 課 災害・防犯 係					課長名	東 栄一				
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号	4 - 6		
【施策名】 防災・防犯体制の推進								総合計画書(ページ)	93		
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 災害時における食料を必要とする市民					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 災害により食料を必要とする市民の数 → 15,301人(当市避難所生活者最大数)					
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 災害時における食料を必要とする市民に対して、備蓄食料を発災後3日分程度配布できる状態にしたい。					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 災害により食料を必要とする市民の数(食数) 15,301人(東京都被害想定H24基準多摩直下地震：当市避難所生活者数最大数)×7食(発災後3日分) = 107,107食					
	③ そのために何をしましたか。 平成30年度の備蓄食料増配備により、目標数を達成している。そのため、平成31年度は年度末で賞味期限が切れる食料について、備蓄数を減らすことなく維持することに努めた。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) 平成31年度に購入した食料 ・アルファ米(白米) 3,750食 ・アルファ米(おこわ) 3,750食 ・おかゆ 300食 → 乾パン 1,500食 ・5年保存クラッカー 1,440食 ・5年保存ビスケット 1,440食 ・粉ミルク 32.4kg ・粉ミルク(アレルギー対応) 2.4kg					
2 指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標			
				平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度実績		令和2年度目標	令和3年度目標		
	対象指標	①の数値	食	15,301	15,301	15,301					
	成果指標	②の数値	食	107,107	107,107	107,107					
目 標		②の目標値	目標値設定の考え方								
活動指標		③の数値	食	101,850	110,410	110,410					
3 経費	事業費(実績)		円	3,990,664	3,089,306	2,449,266		※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,310,000円 時間単価は、4,300円 で計算してください。 【算出根拠】平成30年度決算数値。 (退職手当組合負担金、共済費も含む。)			
	財源	一般財源	円	3,990,664	3,089,306	2,449,266					
		特定財源	円								
	(うち受益者負担)		円								
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.5	0.5	0.5					
		所要人数(再任用)	人								
職員人件費(再任用以外)		円	4,126,500	4,122,000	4,155,000						
職員人件費(再任用)		円									
事業費+人件費		円	8,117,164	7,211,306	6,604,266						
4 環境変化等	(1) 開始年度		24 年度								
	(2) 環境の変化		東日本大震災発生以後、東京都が平成24年4月に公表した新被害想定では当市避難所生活者数が4,879人から15,301人と大幅に増加し、現時点での備蓄食数は不足することとなった。更に、平成25年度には国より南海トラフ地震対策として、一人あたり一週間分の備蓄が必要との提示がされたため、今後更に備蓄食数を増加させることや市民への個人での備蓄を呼びかけることがより必要となった。								

事業名称	災害対策事業費 [ 災害対策用食料備蓄事業 ]			
担当部署・課長名	防災安全	課	災害・防犯	係 課長名 東 栄一

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成31年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 近年の地震や風水害の影響によえい、市民の備蓄に対する意識は年々高まってきており、避難所における備蓄食料についても認識が深まっている。また、防災訓練等に参加した市民から、アレルギーを持つ人のための食料や、乳幼児のための食料等、より多様な食料について意見が出ている。
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。(複数回答可) <input type="checkbox"/> 取り組んだ <input checked="" type="checkbox"/> 取り組まない 取組手法： 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体： ) ⑦後援・場の提供 ⑧その他( )
7 課題	(2)令和2年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点 現在備蓄している食料は、避難所生活者を想定したものであり、東京都の想定では震災後も自宅で生活する市民が圧倒的に多いと言われていることから、市民は、自助のため、各家庭において災害に備えた食料等の準備をしておくことの周知を引き続き図っていく必要がある。 (1)平成31年度に課題とした内容(「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3)を転記) 継続して備蓄食料の管理を徹底する必要がある。 市民へ備蓄食料について認識を深めてもらい、自ら災害に備えて食料を備えてもらえるようにすることが肝要である。 (2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成31年度に実施したこと。 年度末で賞味期限切れを迎える食料品について、過不足が生じないように入替作業を実施した。 市報や総合防災訓練等のイベントを通じて、市民へ備蓄食料について啓発した。 地域の防災訓練等に参加し、各家庭で行う日常備蓄を中心に自助の重要性について広報した。 (3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案) 継続して備蓄食料の管理を徹底する必要がある。 引き続き市民へ備蓄食料について認識を深めてもらい、自ら災害に備えて食料を備えてもらえるようにする。 要配慮者やアレルギー持ちの方を対象とした備蓄食料について検討する。
8	施策貢献状況 (この仕事は、総合計画(基本計画)に掲げる課題の解決手段になっているか。) 施策名： 防災・防犯体制の推進 <input checked="" type="checkbox"/> なっている <input type="checkbox"/> 環境の変化等により成果が減少している <input type="checkbox"/> 類似の事業が他にあり改善の余地がある(事業名： )
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性(「7 課題(3)」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など) <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 【取組内容】 ①備蓄品管理台帳の随時更新を徹底する。 ②期限切れを迎える食料の入替を行い、備蓄数の増量等について検討する。 ③個人で食料を備蓄してもらうために、市報及び防災訓練等行事での広報を行う。 (2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 ①市内各備蓄コンテナ・倉庫の定期的な点検を実施し、台帳との整合性を図る。 ②防災意識のある人となない人との差が大きいため、防災意識を啓発する行事や広報を今後も継続して実施する。 ③他市の備蓄状況や、市民のニーズ等を踏まえ、新たな備蓄食料の配備について検討する。